

## 【施策2】 子どもたちの健やかな体をはぐくみます

(施策の現状)

一人一人の子どもたちが生涯を通して生き生きとした生活を送るためには、心身ともに健やかに成長していくことが大切です。

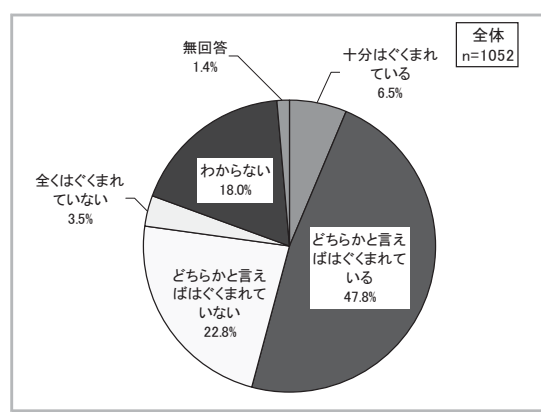
本県ではこれまで、体力の向上・健康の増進、食育<sup>22</sup>の推進等に関する取組みを進め、子どもたちの健やかな体の育成に努めてきたところです。

しかし、全国的な傾向と同様に、本県においても、子どもたちの体力が長期的な低下傾向にあり、運動に興味を持ち活発に運動する子どもとそうでない子どもの二極化の傾向が見られます。

また、本県の朝食欠食率や孤食<sup>23</sup>の割合は全国平均よりも低い状況ですが、学年が進むにつれて増加傾向にあるなど、本県においても望ましい食習慣や生活リズムが身につけていない現状があり、すべての学校種で肥満傾向児<sup>24</sup>の出現率及びむし歯被患率が全国平均を上回っています。〔健やかな体をはぐくまれていると感じる割合(全体)〕

県民アンケートでは、本県の児童生徒の健やかな体の育成について、半数以上が、「十分はぐくまれている」、「どちらかと言えばはぐくまれている」と感じているという結果でした。

また、児童生徒の「体力・運動能力の向上」(88.0%)、「健康増進への取組み」(84.0%)、「健全な食生活の実践」(80.6%)などで、「重要」または「どちらかと言えば重要」と答えた県民の割合が高く、子どもたちの健やかな体の育成について、県民が特に重視しているという結果が出ています。

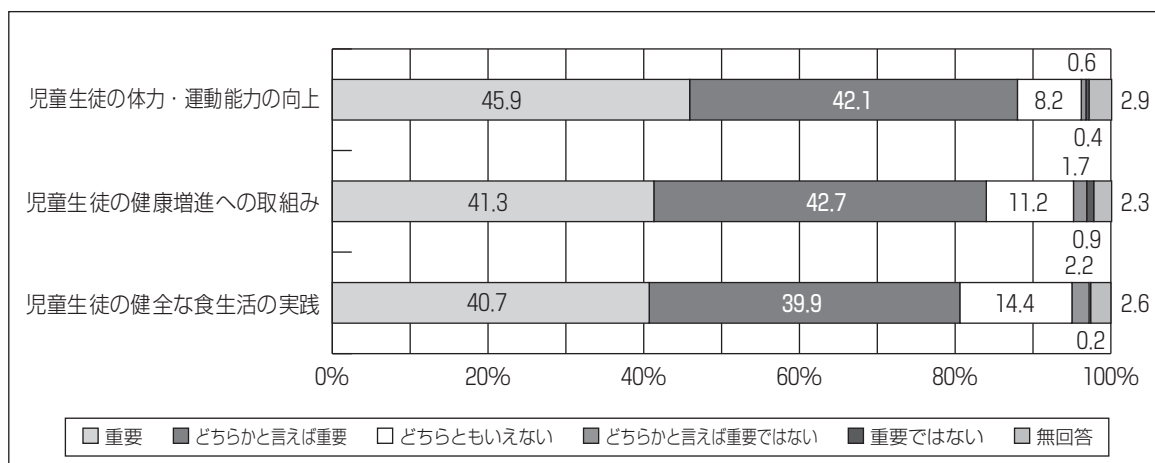


<sup>22</sup> 食育……食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。本県の「ふくしまっ子食育指針」では、学校における食育を子どもたちが生涯にわたって健康で生き生きとした生活を送ることができるよう、家庭や地域との連携のもと、教育活動全体を通して、自ら望ましい食生活を実践していく力(食べる力)や感謝の心、郷土愛等を身につけていくことと捉えている。

<sup>23</sup> 孤食……家庭において、個人の意思に関わらず一人で食事をとること。特に、食事の際に孤独を感じてしまう「寂しい食事」のこと。

<sup>24</sup> 肥満傾向児……性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者。  
肥満度=(実測体重-身長別標準体重) / 身長別標準体重×100%

### 〔各施策の今後の重要性について〕



#### (基本的方向性)

- ・ 子どもたちの体力・運動能力を向上させ、生涯にわたって積極的にスポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育成するため、外部指導者の活用などにより、教科体育及び運動部活動の充実を図ります。
- ・ 総合型地域スポーツクラブ<sup>25</sup>やスポーツ少年団などの地域のスポーツ団体の活動を支援します。また、地域のスポーツ団体による学校への協力・支援体制づくりを進めます。
- ・ 栄養バランスのとれた食事をとるなどの望ましい食習慣や食生活を実践していく力や感謝の心をはぐくむ食育<sup>22</sup>を学校、家庭、地域との協働により推進します。
- ・ 児童生徒が自ら生涯にわたり健康の保持増進を図ることができるよう、健康教育を推進します。

#### 【今後の取組み】

##### □ 体力の向上に関する取組みの充実

本県独自に開発した運動身体づくりプログラム<sup>26</sup>の普及や、教員の指導力を高める講習会等の開催、専門的指導者の派遣等により、体育の授業、運動部活動等の充実を図ります。

<sup>22</sup> 食育…… 23 ページ参照。

<sup>25</sup> 総合型地域スポーツクラブ……地域の住民誰もが生涯を通してスポーツに親しめるよう、近隣の学校や公共スポーツ施設等を活用しながら、複数種目の構成のもと、自主的に運営・活動している非営利団体。

<sup>26</sup> 運動身体づくりプログラム……体育の授業の中で各種の動きを楽しみながら体力の向上を図るためのプログラム。福島県教育委員会が福島大学と連携し主に小学校用として平成18年度に作成した。

- 地域スポーツ団体に対する活動支援  
総合型地域スポーツクラブ<sup>25</sup>や各種スポーツ団体の活動を支援するなど、身近にスポーツに触れ親しむことのできる場の整備に努めます。
- 地域のスポーツ団体による学校への協力・支援体制づくり  
地域のスポーツ団体と協力しながら、学校への効果的な地域のスポーツ指導者の派遣を行う支援体制づくりを進めます。
- 食育<sup>22</sup>の推進  
「ふくしまっ子食育指針<sup>27</sup>」に基づき、栄養教諭<sup>28</sup>や食育推進コーディネーター<sup>29</sup>を中心として、学校における食育の推進体制を整備するとともに、「食べる力」（自ら望ましい食生活を実践していく力）や「感謝の心」、「郷土愛」を育成することができるよう、学校給食を活用しつつ、家庭、地域、関係機関の連携のもと教育活動全体を通して食育<sup>22</sup>を推進します。
- 健康教育の推進  
家庭や地域と連携しつつ、学校医等や関係機関も含め学校教育活動全体で健康教育を推進し、児童生徒が生涯にわたり、健康の保持増進を図ることができるよう、必要な知識及び習慣を身につけさせます。

---

<sup>22</sup> 食育…… 23 ページ参照。

<sup>25</sup> 総合型地域スポーツクラブ…… 24 ページ参照。

<sup>27</sup> ふくしまっ子食育指針……平成19年3月、県教育委員会が定めた、本県の学校における食育推進の方向性を示したもの。基本的な考え方や目標、発達段階に応じた望ましい食に関する行動指標、学校における食育推進上のポイント等が記載されている。

<sup>28</sup> 栄養教諭……学校給食の管理や児童生徒への食に関する指導などを行う職員。本県では平成19年度より配置されている。

<sup>29</sup> 食育推進コーディネーター……小・中学校、高等学校及び特別支援学校における食育を、各学校の中心となって推進する教職員。本県の各学校においては、平成20年度より校務分掌に位置付けられている。

〔施策2 指標〕

指標名	現況値	目標値	備考
朝食を食べる児童生徒の割合（公立幼・小・中・高・特別支援学校 <sup>15</sup> ）	H21年度 95.4% (H20年度 95.1%)	H26年度 96.0%以上	
学校給食における地場産物活用割合（学校給食を実施している公立幼・小・中・高・特別支援学校 <sup>15</sup> ）	H21年度 37.1% (H20年度 34.7%)	H26年度 40.0%以上	
小学校児童の栄養不良や肥満、やせ傾向（栄養状態 <sup>30</sup> ）の割合（公私立小学校）	H21年度 2.0%	H26年度 低下をめざす	モニタリング指標
12歳児の一人平均むし歯数	H20年度 1.8本	H26年度 1.5本以下	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較割合（公立小・中学校）	H20年度 小5男子 100.2 小5女子 101.9 中2男子 99.8 中2女子 99.4	H26年度 小5男子 101.0以上 小5女子 102.5以上 中2男子 101.5以上 中2女子 101.0以上	平成20年度の全国平均値を100とした場合の数値
運動部加入率（公立中学校、公私立高等学校全日制）	H21年度 高校生 45.7% 中学生 77.2%	H26年度 高校生 上昇をめざす 中学生 上昇をめざす	モニタリング指標 モニタリング指標 【関連施策】 施策18

※ 現況値の括弧書きは、福島県総合計画策定時の値

<sup>15</sup> 特別支援学校……15ページ参照。

<sup>30</sup> 栄養状態……定期健康診断等において、学校医が子どもの皮膚の色や光沢、貧血の有無、皮下脂肪厚、筋肉や骨格の発達程度等について視診又は触診することによって、栄養不良や肥満、やせ傾向を判断する検査項目の1つ。